

事業名	地域農業振興事業		事業期間	平成 28 年度						
			所管課	農林課						
交付金事業の概要	○農業の『6次産業化』を促進するため、市内農業関係機関の参画により、戦略プランを策定する。 ○農産物加工品の新規開発を支援し、自立を目指す農業者の『6次産業化』を促進する。 ○農空間を次世代へ継承するため、就農実践研修等を実施し、新たな担い手を育成・確保する。									
事業の背景及び目的	○本市農業を取り巻く環境は、農業従事者の高齢化、後継者の他産業への流出に伴う担い手の減少に加え、農地と宅地の混在化が進むなど、都市型農業特有の課題を抱えている。 ○大消費地の近郊である有利な立地を活かし、「産業として成立する農業」を確立するためには、『6次産業化』の促進が有効と考えるが、新たな加工品の開発には、多額の投資が伴うことから躊躇する農業者が多数存在している。 ○農業者が積極的に『6次産業化』にチャレンジすることにより、自立した農業者の育成を図り、活力のある地域農業の実現と新たな担い手の創出につなげていく。									
予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	
	報償費	100,000	委託料	13,000,000		報償費	0	委託料	8,861,400	
	旅費	31,000	使用料及び賃借料	156,000		旅費	480	使用料及び賃借料	60,610	
	需用費	713,000				需用費	2,880	負担金補助及び交付金	22,500	
	計		14,000,000			計		8,947,870		
平成28年度の取組	取組①名称：6次産業化戦略プラン策定事業									
	取組の内容	○6次産業化を促進するために必要なノウハウを有する機関で構成する「連絡会議」を設置。 <連絡会議の構成> 市・大阪府・農業団体・商工会議所・JA・金融機関 <連絡会議の取組> 先進的情報を収集するため視察研修を実施するとともに、連絡会議を3回開催した。 ○農業者が6次産業化に向けて、効率的かつ効果的に取り組むための道筋となる「和泉市6次産業化等戦略プラン」を策定した。			取組の意図・目的		○市内農産物の特性を活かした新商品の開発や加工技術、販路開拓、本市の支援方策等の方向性を示す。 ○プラン策定により6次産業化事業に対する国補助金の拡充を図る。			
					取組の実績・成果		○農業者が本プランに基づき、6次産業化事業に取り組む場合は、国の補助金が拡充される。 ○このことから、6次産業化を希望する農業者に対し、必要に応じた支援を行う基盤が整った。			
取組②名称：6次産業化新規商品開発等事業										
取組の内容	○大阪府立大学への業務委託により、地場農産物を活用した商品開発を実施。 ○選定した3事業者に対して、特徴ある商品開発を支援し、試作品を開発した。 ○商談会に試作品の展示を行うブースを出展し、市場評価アンケートを行った。			取組の意図・目的		○6次産業化を支援することで、農業者の自立を促し、継続可能な農業経営を図る。 ○開発した商品のビジネスマッチングにより販路拡大を目指す。				
	<選定事業者> ・農業法人いずみの里：市内農家女性が出資・設立 ・飯阪農園：原木のこだわり農法で椎茸生産 ・農業法人グリーングルーブ：水耕栽培を中心に、日本では入手しにくい野菜の栽培・販売			取組の実績・成果		○市、大学、選定3事業者が連携し、商品開発を進めた結果、次の3品を試作した。 ・からだにやさしいみかん大福・・・いずみの里 ・原木しいたけふりかけ・・・飯阪農園 ・プレミアムミックスリーフ・・・グリーングルーブ ○試作品の展示会で、事業者が外食産業等とながり、新規販路が開拓できた。 (いずみの里2件、飯阪農園2件、グリーングルーブ1件)				
取組③名称：6次産業化担い手確保・育成事業										
取組の内容	○いずみの農業協同組合への業務委託により、担い手育成のための研修を実施。 ○公募により応募のあった就農希望者3名を対象に、営農類型(水ナス、野菜、水稲、シイタケ、イチゴ)の異なる認定農業者5名が講師を務め、就農研修を実施した。 <研修期間等> 8月～翌年1月、1件あたり10日間の計50日間 ○先進地視察や各種農業フェスティバルに参加し、受講者の就農意欲を高めた。			取組の意図・目的		○6次産業化事業の継続性を確保すべく、新たな担い手の確保・育成を図る。 ○地域に定着し自立した農業者の確立を目的とする。				
				取組の実績・成果		○3名の就農希望者が本研修プログラムを修了し、農業に関するノウハウを得た。 <研修後の状況> 1名が自立就農し、2名が既農者への就農(就農定着促進農業研修)に進む。				

KPI (重要業績評価指標)	交付金対象事業	KPI①: 地元農産物を活かした新たな加工商品の開発			
		現状値	目標値 (平成28年度)	実績値	【参考】数年後の目標値 (平成31年度)
		-	3品	3品	10品
		KPI②: 加工商品の販路拡大件数			
		現状値	目標値 (平成28年度)	実績値	【参考】数年後の目標値 (平成31年度)
		-	5件	5件	20件
		KPI③: 新たな担い手の育成			
		現状値	目標値 (平成28年度)	実績値	【参考】数年後の目標値 (平成31年度)
		-	3名	3名	5名
	総合戦略における位置付け		基本目標	市内農林業に活力があると感じる市民の割合	
		数値目標	H25 16.8% ⇒ H31 25.0%		
所管課の評価	平成28年度における取組の効果	評価	評価理由		
		B 効果的だった	<p>○戦略プランの策定や連絡会議の設置により、6次産業化を希望する農業者の支援体制を整えることができた。</p> <p>○3事業者が6次産業化に取り組み、商談会の参加により市場調査と新たな販路候補を獲得することができた。</p> <p>○新規就農希望者3名が農業研修プログラムを通じて、農業技術を習得し、既農者への就農や自立就農につながった。</p>		
	目標値達成状況にかかる要因分析	達成状況	要因分析		
		2 達成	<p>○商品開発及び担い手の育成については、本事業の実施により、目標を達成することができた。</p> <p>○販路拡大については、試作品の展示会を通じて各事業者が外食産業など新規の取引先を得ることができ、目標を達成した。</p>		
交付金対象事業の必要性	評価	評価理由			
	③維持(一部見直し)	<p>○国の地方創生に関する交付金事業としての取り組みは終了したが、地域農業の活性化には、6次産業化の促進は必須につき、農業者を後押しする施策を継続していかなければならない。</p> <p>○他市の支援事例など調査・研究し、本市の支援施策を再検証する。</p>			
平成28年度の取組成果・効果を踏まえた今後の事業展開		<p>○策定した戦略プランに基づき、6次産業化を希望する農業者に対して、適正な支援をしていく。</p> <p>○開発した試作品については、商品化につながるよう必要な支援を行う。</p> <p>○研修受講者が農業に定着し、自立した経営を確立するためには、継続的なサポートが不可欠につき、引き続きフォローアップを実施していく。</p> <p>○今後、和歌山県かつらぎ町との地域間連携により、開発した加工品や農産物、特産品等を両市の「道の駅」で相互販売するなど、双方の農業活性化につながる仕組みを検討する。</p>			